

豊作と安全願い 勇壮に舞う

久谷ざんざか踊り



平太鼓や一文字がさを身に着け、本殿前で勇壮な舞を奉納する踊り手
= 15日、新温泉町久谷の久谷八幡神社

新温泉・久谷八幡神社で奉納

兵庫県の重要無形民俗文化財に指定されている新温泉町の伝統芸能「久谷ざんざか踊り」が15日、久谷八幡神社（同町久谷）の例祭で奉納された。伝統的な衣装を身にまとった踊り手8人が豊作や氏子の安全を願い、勇壮な舞を披露した。（安部航太）

久谷ざんざか踊りは、約450年前に始まったとされ、全国各地に分布する「風流太鼓踊り」の一つに分類される。1958年以降は、地元の保存会（株本寛会長）が継承している。今年、中高生3人と20〜40代の保存会員5人が踊り手を務め、本殿前に一列に整列。和紙で装飾した一文字がさをかぶり、腰に平太鼓を身に付けた踊り手は「ザンザカザット」のかけ声や太鼓の音を境内に響かせながら優美に舞った。本殿前に集まった住民や見物客は厳かに舞う踊り手に魅了され、しきりにシャッターを切っていた。

境内を後にした踊り手は地区内48戸を巡って舞を奉納したほか、さかきやみこし、獅子なども繰り出し、地区内は活気に満ちた。踊り手を務めるのは今年が最後だという浜坂高3年の株本悠貴さん（17）は「バランスを崩さないようにすることを意識した。緊張したが、ほとんどうまくできた。うれしくて達成感がある」と振り返った。後継者不足に言及した株本会長（61）は「5年、10年先を心配するよりもまず、1年1年を無事にやり遂げることが大事」と語った。